

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 13 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 朝風		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号 (電 話) 011-683-8817		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成21年2月10日

【情報提供票より】 ( 20年11月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 26 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1~2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 10,000 円 暖房費(11~3月) 8,000円
敷 金	有 ( 円 ) ・ (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円 ) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

### (4) 利用者の概要 ( 11月 16日現在 )

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	立花病院、さとう歯科
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地内に運営法人の病院が併設され、医療複合施設で作業療法や音楽療法に日常的に参加でき、楽しみごとや運動など多くの面で効果がみられる。ホーム内は明るくゆとりのある構造になっている。日中はホーム中央の居間で集い、窓から見える山の景色に季節を感じ落ち着いて安心した暮らしをしている。職員の異動も少なく利用者とは寄り添い支え合う関係が築かれている。毎朝運営法人の院長が訪問し、利用者の顔色を見て声かけをしており、食事も運営法人の栄養士の献立で健康と栄養面において利用者と家族が安心できる環境である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題の地域密着型サービスの理念は既に揭示がされている。職員を育てる取り組みは、職員の参加計画が、まだ十分とはいえない。ほかの業者との交流は、地区のホームの見学を一度しているが交流までには至っていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全員で考え管理者がまとめたもので作成されている。前回評価の改善点を職員で再検討して改善につなげている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>系列グループホームと合同で2ヵ月毎に運営推進会議が開催されている。会議において地域から災害時の協力をいただけるようになるなど、毎回活発な意見が出され、内容は議事録に記載されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、隔月で「ホーム便り」のほか、請求書郵送時に利用者の暮らしぶりや近況を伝えている。来訪時や電話連絡時には家族から意見を表出しやすい雰囲気を作っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の小学校の運動会や発表会を見学したり、散歩時に会った住民に声かけをして交流をしているが、町内会行事への利用者の参加状況が不十分である。今後は職員だけではなく、利用者と地域住民との交流を積極的に持つ機会を増やしていくことを期待したい。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の改善項目の地域密着型サービスとしての理念を、新たに当ホームの理念に加えたもので作成され、ホーム内に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内の数箇所に掲示し、職員のネームプレート裏面にも記載している。理念を職員全員の共有として、日々確認をしながらケアサービスを実践するよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し、散歩時や公園で会ったときに住民と挨拶を交わし、近隣の小学校での運動会や発表会の見学には利用者とともに参加している。今後も地域との連携を深める取り組みを計画中である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、職員全員が話し合いながら作成し、これを管理者がまとめている。評価後に改善点がある場合は職員や運営法人と話し合い、改善に向け具体的な対策に取り組んでいる。		

札幌市手稲区 グループホーム 朝風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、系列のグループホームと合同で隔月毎に開催されており、出席者からも活発な意見を出していただき、日々のケアサービスに反映させるように努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は区の管理者会議へ参加するとともに、医療保護の件で相談したり情報収集に努め、ホームの質の向上に役立てるよう取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月に送る「ホーム便り」と請求時に利用者一人ひとりの近況報告の手紙を入れて郵送している。家族の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情や要望がある場合は、会議などで検討してケアサービスに反映させている。意見をいただいた場合は内容を記録し、どのように対処したか記録されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の多くは、運営法人内で行なわれているため、顔馴染みの関係ができている場合が多く、利用者への影響は見られない。異動後の職員は利用者とのコミュニケーションに十分配慮し、不安を与えないよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人内の合同講演会や院長の訓話を聞いているが、職員が個別に研修を受講する機会が若干少なく、外部研修への参加の機会も十分とはいえない。受講内容をほかの職員と共有することに更なる努力を期待したい。	○	内部研修・外部研修の年度計画を立て、各種研修情報を提供し、職員が希望する研修へ参加できる環境を作り出す取り組みを期待したい。救命救急の方法についても受講されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に出席し、地区のグループホーム一箇所は見学をしているが交流とまでは至っていない。運営法人内に限らず地域のほかの業者との積極的な連携を期待したい。	○	系列のグループホームだけではなく、地域のグループホームと積極的に交流を持ち、相互訪問や合同実習、勉強会、行事を通し、ホームのケアサービスの向上につなげていくことを期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くは隣接病院からの入居であり、職員やホームに馴染みやすい関係になっている。自宅からホームへ入る利用者には、ホームに来院していただき、何度も面談して雰囲気や環境に馴染めるよう配慮をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のやりたいことや得意なことをサポートしながら、利用者の出来ないことだけを職員が支援して、過ごすよう努めている。利用者からは昔の出来事や調理方法などの話や畑作業で教えていただくことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から利用者の情報を基に利用者と日常的に話し合い、表情や会話から思いや意向を把握するようにしている。把握が困難な時は、利用者の動きを観察し、何を望んでいるのか、思いを汲み取るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者と家族、医師、理学療法士などで話しあい、職員の意見を取り入れたもので作成されている。作成された介護計画は職員で共有されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に6ヵ月毎に作成されているが、1ヵ月毎に見直しを実施している。利用者の変化が見られる場合は、相談のうえ、その都度計画の見直しを行なっている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列グループ内で行なわれている音楽療法や作業療法には自由に参加したり、大浴場を利用するなど、相互利用が可能であるため、利用者の大きな楽しみになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営法人の病院が隣接しており、24時間体制で緊急時の対応が出来る環境にあり、病院関係者とは随時情報が取れる状況である。歯科も隔週で訪問治療を行っており、従来からのかかりつけ医の受診には家族が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応は指針を作成し、家族へは入居時に利用者のターミナルケアまでを説明し、同意をいただいている。重度化への対応は職員全員の共有となっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重し誇りを損ねないよう優しく話しかけており、プライバシーに配慮した対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は運営法人のケアハウスで行なわれるカラオケや習い事など、日々の役割や楽しみごとを持ち、ゆったりと自分のペースで暮らしている。職員も利用者の希望に合わせた支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事準備や後片付けを行なっている。職員1名が利用者と同じテーブルで介助をしながら、一緒に食事をしている。ほかの職員は見守りながら、楽しく食事を取れるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、午後の時間帯に1人平均週2回程度入浴している。入浴嫌いな利用者には根気よく説得して、気分を変えたときに再度声をかけて、少なくとも週1回は入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食事準備や掃除、菜園の手入れや習い事など多種多様に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間は日常的に運営法人内の多目的ホールで運動をしている。暖かな季節にはホーム周辺や近くの公園に行くことを楽しみにしており、職員は更なる外出支援を計画している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関だけはインターホンで来訪者を確認してから、開錠するようなセキュリティになっているが、内側から戸外へは自由に出ることができる。また、上下階のユニットには自由に行き来が出来るようになっている。		

札幌市手稲区 グループホーム 朝風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の災害訓練があり、一度は消防署員の立会いで、一度は自主的なホームでの災害訓練である。運営推進会議でも災害時には近隣住民の協力をいただけるよう話し合いが行なわれ、利用者の安心につながっている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、運営法人の栄養士によりバランスのとれたメニューになっており、利用者の状態に応じた食事が提供されている。注意が必要な利用者の水分や食事摂取量は記録されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	医療法人として運営されているグループホームの機能を十分に備えており、ホーム内は広く明るく清潔感がある。居間からは雄大な山の景色が四季折々に望め、季節の飾りや作品、手芸品が飾られ、暖かな雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は医療用のベットが備え付けられており、出窓や収納スペースも備え付けであるため、十分なスペースでゆとりが感じられ、利用者は仏壇や好みの調度品を自由に持ち込み、ゆったりと暮らしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。